Kyoto University Libraries

■ 文献収集の基礎

～論文・レポートを書くための、文献の調べ方・集め方～

■文献収集の重要性

どんな学術的研究の分野でも、研究成果は、論文や、図書といった文献資料に発表されます。そしてその学問分野は、発表された文献の積み重ねで発展してきました。

卒業論文やレポートを書くときでさえ、その分野の過去の研究成果をふまえ、それを参照し、引用することなしには成り立ちませんし、説得力のあるものにはなりません。そこで、よい論文・レポートを書くためには、まず、先行研究の文献資料を収集するということが大切です。

文献を収集し、目を通す過程で、その分野の研究の全体像が実感され、なにが重要な学説か、どんな論点があるかなどが見えてきます。また、自分が今から書こうとしている論文・レポートの方向性も見えてくるでしょう。

したがって、論文・レポートを書くにあたっては、まず、ターゲットとなるテーマに関する文献をなるべく網羅的に把握し収集することが、非常に重要になってくるのです。

■文献収集の基礎知識

文献収集は、下の図のような４つの段階を組み合わせておこないます。どの段階が必ず最初、いうわけではありません。人によって、また、論文・レポートのテーマや課題によっても、異なるでしょう。

例として、すでにある情報から、どこから始めたらよいのか示してみますので、参考にしてみてください。

- 先生から、参考文献を指定されている。　→　その文献がどこにあるか探して手に入れ、まずは目を通してみよう。(Locate & Collect)
- 指定された参考文献に、さらに参考文献リストがついている。　→　課題に役に立ちそうな文献を選んで手に入れよう。(Evaluate, Locate & Collect)
- 「環境破壊について」など、大まかな課題は決まっているが、参考になる文献についての情報がまったくない。　→　参考になる文献にどのようなものがあるか探してみよう。(Explore, Locate & Collect) その過程で、自分の興味・関心に基づいてテーマを絞り込もう。(Evaluate)

Explore

どんな文献がある？

その分野の参考文献にはどんなものがあるのか、なるべく網羅的に検索して、文献リストを作ろう。

Evaluate

どの文献が役に立つ？

文献リストのうち、どの文献を手に入れて読めばよいのか、また、手に入れた論文が自分の研究に役に立つか、分析・評価しよう。

その文献はどこにある？

KULINE や CiNii Books など、さまざまな総合目録データベースを検索してその文献がどこにあるのか確認しよう。

Locate

Collect

どうやって手に入れる？

京都大学になくてもあきらめないで！
他の大学から取り寄せるなど、文献を手に入れる手段はいろいろあります。

＊ Explore ＊ どんな文献がある？

- すでに入手できている文献の、**参考文献リストから芋づる式**に探そう。
- **百科事典**で、調べているテーマに関する見出しを見よう。その分野の基本文献が掲載されている場合が多い。オンラインでは JapanKnowledge Lib（日本大百科全書など含む）が便利。
- **京都大学蔵書検索 KULINE（クライン）**で、調べているテーマのキーワードで検索してみよう。
- 論文や記事を検索するには、**各種オンライン・データベース**（KULINE の[蔵書・論文+] タブ、CiNii Articles、Web of Science、分野別データベース）を使いこなそう。
- **書誌**（ある主題に関する文献目録）や**文献索引**（論文の情報を探しやすく配列した目録）がすでにあるかもしれない。KULINE で、テーマに沿った検索語に加えて、「件名」や「タイトル」に「書誌」や「書目」などのワードを入力すれば、そういった資料を検索できる。
- 図書館の本は分野ごとに分類されて並べられている。関係のある分類の書架にある本を目で見る、「**ブラウジング**」をしてみよう。偶然の発見 (serendipity)も、文献探しの大切な成果。
- **WebcatPlus の「連想検索」**を利用しよう。入力したキーワードから連想されるキーワードで検索した結果も出てきて、意外な資料が見つかる場合も。
- インターネット上の**ウェブページ**も参考文献になり得る。Google などの検索エンジンのほか、学術情報サイトやある分野に限って検索できるディレクトリサービスも利用しよう。

特定の文献を指示するタイトル、著者名などの情報を、「書誌事項」という。あとで文献を探すとき、また、論文・レポートの参考文献として記載するときに必須の情報なので、文献リストには、正確で十分な書誌事項を記録することが大切。 ⇒ 参考：レファレンス・ガイド『参考文献リストの見方』

＊ Evaluate ＊ どの文献が役に立つ？

- **基本文献か？** ⇒ 先生からの推薦・指定図書や、事典に載っていた文献／事典の項目の執筆者の文献、引用回数の多い文献*は、おさえておくべき必須の文献といえる。
  *雑誌論文の引用回数は、Web of Science、Google Scholar などのデータベースで調べることができる。
- **それは図書か、雑誌論文／記事か？** ⇒ 文献の形態によって内容の質も異なる。図書は、総括的で、学術研究としては比較的確立したもの。雑誌論文は、研究としては新しく、個別のテーマを扱っている。
- **その文献／研究の新しさはどうか？** ⇒ 発表された時期や背景も、その文献を評価する重要な情報。
- **内容の科学的／学術的妥当性は？** ⇒ 例えば著者が匿名のインターネット上の情報(Wikipedia など)を分析なしに真に受けて引用することは、適切でないこともある。様々な情報源から判断しよう。

＊ Locate ＊ その文献は、どこにある？

KULINE を検索する前に文献の種類を確認！

- **図書** →その図書のタイトルで、探す。
- **雑誌論文**や**新聞記事** →その論文が載っている雑誌・新聞のタイトルで探す。

- まずは**京都大学**にあるか探す。 ⇒ 京都大学 KULINE、全学総合カード目録 [附図 3 階]
- **他大学**にあるかどうか探す。 ⇒ (KULINE から) 他大学検索、CiNii Research
- 近くの**公共図書館**にあるかどうか探す。 ⇒ 京都府立・京都市立図書館の蔵書検索
- どうしても見つからないときは？ ⇒ 図書館員にたずねる。冊子体目録、海外の図書館の所蔵状況など、さまざまな手段で文献探しを手伝ってくれる。

＊ Collect ＊ どうやって手に入れる？

- **京都大学**内にある。⇒ 所蔵している図書館／室へ行って利用する。京都大学には、遠隔地にある図書室も含めて約 40 の図書館／室がある。それぞれ開館時間や利用規定が異なるので、事前に調べてから訪問しよう。
  電子ジャーナルなどは、ウェブ上で入手できる（本学の契約する電子リソースの利用に際しては、認証システムの設定が必要ですが、設定すればその多くを自宅からでも利用可能することができる）。
- **他の大学**にある。 ⇒ 訪問利用するか、図書館間相互利用サービスを利用して、文献の複写か現物（図書のみ）を取り寄せることができる（送料等実費）。申込・問合せは、図書館の窓口へ。
- 近くの**公共図書館**にある。 ⇒ 自分で出向いて、利用する。
- その他、**国立国会図書館**や**海外**などにある資料も図書館を通じて取り寄せることができる。

わからないことがあったら・・・ 各図書館／室や、 附属図書館情報企画掛まで ref660@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp